

Title	社会科学と社会政策：ある大統領諮問委員会の顛末
Sub Title	A full report on the commission on obscenity and pornography
Author	三井, 宏隆(Mitsui, Hirotaka)
Publisher	三田哲學會
Publication year	1990
Jtitle	哲學 No.90 (1990. 6) ,p.165- 197
JaLC DOI	
Abstract	<p>自分が見たいものを見る,読みたいものを読むといった個人の自由が社会の安寧,秩序に反するとの理由で制限,制約をうけることがある。「個人の自由といっても,それは無制限に許されるものではない」というのが,制限論者の主張である.この主張の是非はともかくとして,一応それを受け入れるとするならば,次に問題となることは,その線引きをどのようにするのか,ということである.特に人びとが「黒か,白か」をめぐって厳しく対立しているような場合には,線引きは難航する.その一例として,ポルノグラフィー(pornography)の問題があげられる.ポルノグラフィーをめぐっては,規制の強化を主張する人たちと,表現の自由,思想の自由を盾にして規制反対を唱える人たちの間で激しい論争が繰り返されてきた.そこに社会科学者が関与することになったのは,ジョンソン大統領のときに大統領諮問委員会(Commission on Obscenity Pornography)が設置され,委託研究という形で専門家の意見が求められたことによる.その後この委員会は「ポルノグラフィーは成人にとって無害である」との結論を導き出し,それに基づく答申案をまとめて(Lockhart Report),大統領と議会に提出することになった.しかしながら,それを受けた当時のニクソン大統領及び議会は,「この内容はアメリカ国民の道徳心を墮落させるものである」と手厳しく批判したうえで,答申の受諾を拒否してしまったのである.こうして200万ドルの予算と2年間の歳月を費した委員会の報告は(1巻の要約と9巻からなる研究報告書),悪評のうちに世間から葬り去られてしまったのである.それと同時に,社会学者(心理学者,行動科学者)はその研究成果に基づいて社会政策の立案に参画するというまたとないチャンスをフイにしてしまったのである.本稿では,大統領諮問委員会の答申が何故このような結末を迎えることになったのか,この種の社会的争点の解決に心理学の手法を適用することが果して妥当であったのか,そこから得られた知見は一般の人たちにどのように受けとめられたのか,といった問題について,この諮問委員会(Lockhart Report)の活動を辿りながら考えていくことにする.</p> <p>Pornography is a controversial issue that drives most people to extremes of opinion. As such, it seems unlikely that factual evidence alone, however scientific, will succeed in convincing many people to alter their opinions. In 1970, the first large-scale evaluation of sexually explicit material was conducted in the United States by the Commission on Obscenity and Pornography. The Commission concluded that there was no reliable evidence that exposure to explicit sexual materials plays a significant role in the causation of delinquent or criminal behavior among youths or adults. Their report, however, was promptly denounced by Congress as "irresponsible" and "degrading". It was also rejected as "morally bankrupt" by President Nixon. Why does a serious social and behavioral science research effort fail to influence government policy? This paper fully addresses this question.</p>
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000090-0165

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

社会科学と社会政策

——ある大統領諮問委員会の顛末——

三 井 宏 隆*

A full report on the Commission on Obscenity and Pornography

Hiroataka Mitsui

Pornography is a controversial issue that drives most people to extremes of opinion. As such, it seems unlikely that factual evidence alone, however scientific, will succeed in convincing many people to alter their opinions.

In 1970, the first large-scale evaluation of sexually explicit material was conducted in the United States by the Commission on Obscenity and Pornography.

The Commission concluded that there was no reliable evidence that exposure to explicit sexual materials plays a significant role in the causation of delinquent or criminal behavior among youths or adults.

Their report, however, was promptly denounced by Congress as “irresponsible” and “degrading”.

It was also rejected as “morally bankrupt” by President Nixon.

Why does a serious social and behavioral science research effort fail to influence government policy?

This paper fully addresses this question.

* 慶應義塾大学助教授 (人間科学)

自分が見たいものを見る、読みたいものを読むといった個人の自由が社会の安寧、秩序に反するとの理由で制限、制約をうけることがある。「個人の自由といっても、それは無制限に許されるものではない」というのが、制限論者の主張である。

この主張の是非はともかくとして、一応それを受け入れるとするならば、次に問題となることは、その線引きをどのようにするのか、ということである。

特に人びとが「黒か、白か」をめぐって厳しく対立しているような場合には、線引きは難航する。

その一例として、ポルノグラフィ（pornography）の問題があげられる。ポルノグラフィをめぐっては、規制の強化を主張する人たちと、表現の自由、思想の自由を盾にして規制反対を唱える人たちの間で激しい論争が繰り返されてきた*。

そこに社会学者が関与することになったのは、ジョンソン大統領のときに大統領諮問委員会（Commission on Obscenity & Pornography）が設置され、委託研究という形で専門家の意見が求められたことによる。

その後この委員会は「ポルノグラフィは成人にとって無害である」との結論を導き出し、それに基づく答申案をまとめて（Lockhart Report）、大統領と議会に提出することになった。しかしながら、それを受けた当時のニクソン大統領及び議会は、「この内容はアメリカ国民の道德心を墮落させるものである」と手厳しく批判したうえで、答申の受諾を拒否してしまったのである。

こうして 200 万ドルの予算と 2 年間の歳月を費した委員会の報告書は

* pornography という言葉はギリシャ語の pornographos に由来するもので、娼婦に関する記述、娼婦文学を意味するものであった。一方、“obscene”の語源はラテン語の ob-caenum に由来するとも言われる（英語の filth にあたり、ひわいな言葉、読み物を意味する）。但し、“off the scene”，つまり生活の場において公然と示されないもの、を意味するとの説もある（Yaffé, M. 1972, p. 460より引用）。

(1巻の要約と9巻からなる研究報告書)、悪評のうちに世間から葬り去られてしまったのである。それと同時に、社会科学者(心理学者、行動科学者)はその研究成果に基づいて社会政策の立案に参画するというまたとないチャンスをフイにしてしまったのである。

本稿では、大統領諮問委員会の答申が何故このような結末を迎えることになったのか、この種の社会的争点の解決に心理学の手法を適用することが果して妥当であったのか、そこから得られた知見は一般の人たちにどのように受けとめられたのか、といった問題について、この諮問委員会(Lockhart Report)の活動を辿りながら考えていくことにする。

大統領諮問委員会の設置

1960年代、ベトナム戦争に対する批判が高まりつつあるときに、アメリカ国民は自宅に勝手に送りつけられてくるポルノグラフィやわいせつ文書の取扱いに苦慮していた。たとえば当時、各選挙区の有権者から議員あてに送られてくる手紙の内容は、ベトナム戦争に関するものよりも、この種の問題についての苦情を訴えるものの方が多かったとのことである(Eysenck & Nias, 1978)。

こうした背景のもとに、議会は「わいせつ文書(sexual explicit material)及びポルノグラフィの流通の実態はもはや放置しえない段階に至っており、連邦政府はそうした文書や書物が国民、特に未成年者にとって有害な影響を及ぼしているのかどうか、またそれらをより効果的に取締る方法があるのかといったことについて、早急に検討を始めるべきである」との決議案を採択し、それに基づいて諮問委員会の設置を大統領に求める法案を可決した(1967年10月)。

その法案のなかで諮問委員会(Commission on Obscenity & Pornography)に付託された事項は、次の4件であった。

- ① わいせつ文書やポルノグラフィの取締りに関する既存の法律の洗い直しを行うと同時に、そうした文書や書物に関する定義を明確にすること、
- ② そうした文書や書物の取引の実態を明らかにすること、
- ③ そうした文書や書物が国民、特に未成年者に及ぼす影響さらには犯罪、反社会的行動との関係を明らかにすること、
- ④ 憲法に規定された表現の自由に抵触することなしに、そうした文書や書物の取締りを効果的に行う方法があるのかどうかを検討すること、が要請された。

ジョンソン大統領 (Lyndon Johnson) は当初この種の委員会の設置にあまり乗り気ではなかったと言われているが、結局1968年1月に18名の委員を任命することになった。そのメンバーの内訳は法律学者、裁判官といった法律関係者が6名、宗教関係者が4名、社会学者が3名、精神科医が2名などといった構成となっており、男女比は男性16名、女性2名であった。この委員会の顔ぶれについては、「専門職についている、40才以上の、白人男性の集まり」と特徴づけることも可能であった*。

議会で予算が承認され、最初の会合がインディアナ大学の性科学研究所でもたれたのは1968年7月のことであった。その場で委員会の議長に選出されたのがミネソタ大学の法学部長で、著名な憲法学者の William Lockhart であった（その後、この委員会の答申は Lockhart Report ともよばれるようになった）。

また委員会の活動を支えるスタッフとして22名の専門委員が採用されることになり、彼らを統括したのが社会心理学者の W. Cody Wilson であった。

* ジョンソン大統領は議会によって諮問委員会の設置を求められたが、この問題について、“There is a hot potato in a no win game”という見方をしており、任期内に答申の提出を求めることもしなかった (Larsen, 1975, p. 18)。

委員会には、④わいせつ文書やポルノグラフィの取引、流通の実態を調査する小委員会 (traffic and distribution panel)、⑤そうした文書や書物の影響の有無を検討する小委員会 (effects panel)、⑥性教育を始めとする社会政策について検討する小委員会 (positive-approaches panel)、⑦法律上の諸問題を検討する小委員会 (legal panel) が設置され、18人の委員はそれぞれの小委員会に割りふられることになった。但し、3名の社会学者 (Otto, N. Larsen, Joseph, T. Klapper, Marvin, E. Wolfgang) は、その専門とする研究分野のためか、全員が『影響力検討』小委員会 (effects panel) に割りふられることになった。

答申までの時間が限られていたこともあり、各小委員会はそれぞれの方針のもとに独立に作業を進めることになった。その結果、委員が一堂に会して各小委員会の報告をもとに答申案をまとめる作業に入ったのはほぼ2年の任期が終るときであり、最終的に、議会と大統領に答申が手渡されたのは1970年9月30日のことであった。

しかしながら、同年10月13日、上院は60対5の大差で答申の受諾を拒否すると同時に、「諮問委員会は議会が求めたことについて適切な回答をしなかった。そのうえ、答申内容もまた、十分な研究の裏付けをえたものではなかった」と手厳しく批判した*。

さらに同年10月24日、ニクソン大統領は「答申内容を仔細に検討した結果、これは国民の道徳心を墮落させるものであり、私としては決して受け入れることができないものである……。諮問委員会は本来の任務を遂行しなかったと言わざるをえない」とのコメンツを発表した。

また連邦最高裁判所は1973年の判決のなかで、「ポルノグラフィの害

* But it is argued, there is no scientific data which conclusively demonstrates that exposure to obscene materials adversely affects men and women or their society. It is urged on behalf of the petitioner that, absent such a demonstration, any kind of state regulation is impermissible. We regret this argument..... (Larsen, 1975, p. 13-14).

悪は当然のことであり、改めて科学的な検証に委ねる必要性のない問題である」と主張し、諮問委員会の答申を全く無視してしまったのである。

影響力検討小委員会の報告

William Lockhart 委員長が率いる大統領諮問委員会の基本方針は、「具体的な事実に基づいて答申を作成する」というものであり、その際に重要な役割を演じたのが『影響力検討』小委員会の報告であった。

この小委員会（委員長は Otto, N. Larsen）は5名の委員で構成されており、そのうちの3名が社会学者であった*。

小委員会は当該分野に関するこれまでの研究のレビューから始めることとし、それを通じて次のような結論をえた：①人間の性行動を描写した文章や写真は成人の多くに性的な興奮（sexual arousal）をもたらすこと、②そうした文章や写真に対する反応には男女差が見出されること、③性的な刺激に対する反応には個人差がみられること、④どのような社会的文脈のもとでそうした文章や写真を読んだり、見たりするかによって性的な興奮の度合も異なってくることを、である。

しかしながら、この程度の知見では答申案をまとめるには不十分であると判断され、答申に必要とされるデータを新たに自分たちで集めるための研究計画が立案され、研究者のリクルートが行われることになった。その任務にあたったのが W. Cody Wilson であった。

まず研究を進めるにあたって用語の統一が試みられた。すなわち、ポルノグラフィーという言葉の解釈を巡る混乱を避けるために、explicit sexual material 或は erotica といった用語が採用されることになった。

* 諮問委員のなかに心理学者が含まれていなかったことから、委託研究として行われた多くの心理学の実験結果をどちらかと言えば専門外の社会学者が評価し、解釈することになった。小委員会の結論に対して、心理学者からの批判が多いのはこの点に由来するものと思われる。（Eysenck & Nias, 1978 参照）。

また提示刺激についても統一化が図られることとなり、視覚刺激(visual erotic stimuli) に関しては予め標準化されたフィルム或はスライドが使用されることになった。一方、質問紙調査や面接調査にあたっては質問項目を統一することが試みられた。

他方、そうした刺激素材に対する被験者の反応を測定する指標としては、性的な興奮 (psycho-sexual stimulation)、性行動の変化、性に対する態度の変化、エロチカに対する態度の変化、が取りあげられた。なお、研究方法としては調査法、準実験法、実験室実験が併用されることになった。

こうした研究を通じて次のことが明らかにされた。

まずアメリカ国民がポルノグラフィの問題についてどのように考えているのかを探る目的で世論調査が行われた。無作為抽出法により 2,486 人の成人と 769 人の未成年者 (15~20才) を抽出したうえで、彼らに対して面接調査が実施された。

その結果によると、「今日、国家が直面する最も重要な問題を 2 つ乃至 3 つあげて下さい」との設問に対しては、『ベトナム戦争』(54%)、『人種対立、公民権問題』(36%)、『経済、インフレーション、税金、失業』(32%)、『反抗的で、無礼な若者たち』(23%) といった順序になっており、『ポルノグラフィに関する問題』をあげたのは僅か 2% であった*。

「ポルノグラフィを見たり、読んだりすることがどのような影響をもたらすと思うか」との設問に対しては (複数回答)、『人びとを性的に興奮させる』と答えたのが成人の 67% (反対意見は 17%)、『性に関する情報を与える』と答えたのが 61% (反対意見は 27%)、『モラルの崩壊を招く』が 56% (反対意見は 30%)、『女性蔑視をもたらす』が 43% (反対意見 41%) となっていた。

* 但し、この点について、① Gallup の調査では (1969)、成人の 85% がポルノグラフィの取締りの強化を求めていること、② Harris の調査では (1969)、成人の 76% がポルノグラフィの発禁に賛成であった、と報告書は述べている (p. 190 より引用)。

これに対して、少年犯罪や非行の問題を取り扱う専門家の意見は次の通りであった*。

「あなたはポルノグラフィーを見たり、読んだりすることが少年犯罪や非行の主要な原因であると考えますか」との設問に対しては、警察関係者の57.6%が『yes』と答えており、児童相談所やソーシャルワークの専門家の場合には僅か12.4%が『yes』であった。

また、性教育担当者やカウンセラーを対象とした調査結果からは、彼らの多くが「青少年がポルノグラフィーに興味を示すのは当然のことであり、それによって悪影響をうけることはない」と考えていることが明らかにされた。

エロチカに対する行動レベルの反応

ここで問題とされたことは、① エロチックな刺激素材との接触 (exposure to erotic stimuli) が性的な興奮をもたらすのかどうか、② そうした刺激素材との接触がその後の性行動にどのような影響を及ぼすのか、ということであった。

前者については、「エロチックな文章や写真を読んだり、見たりすることは、男女にかかわらず、性的な興奮 (psycho-sexual stimulation) をもたらす」との報告がある一方で、逆に不快感や罪悪感を示す人もいることが明らかにされた。

たとえば、18～21才の独身の男女大学生に対して、エロチックな映画を視聴させた実験では (Mosher, 1970)、男子学生の興奮の度合は7段階評定で最頻値が5、女子学生では最頻値が4であった。

また、同一テーマのエロチックな刺激素材をメディアを変えて提示した場合の興奮度の相違については (Byrne & Lamberth, 1970)、男性の場合

* このデータは University of Minnesota Library School (1965) の調査結果に基づくものであり、The Report of the Commission on Obscenity & Pornography (1970, Bantam Book) に引用されたものである (p. 194 参照)。

はスライドであっても物語風の記述であっても同程度の反応を示したのに対して、女性の場合には物語風の記述に対してより高い反応を示していた。

ところで、エロチックな刺激素材であっても繰り返し提示されていると、飽き (boredom) をもたらすのではないかと指摘がある*。

この飽和効果については、たとえば、次のような実験報告がある (Howard, Reifler & Liptzin, 1970)。

被験者は23名の男子大学生で、全員志願者であった(21~23才)。彼等は3週間(15セッション)にわたり、毎週月~金曜日の間、1日90分1人だけでエロチックな刺激素材(映画フィルム、雑誌など)が置かれている部屋のなかで過ごすように求められた。彼等はその間、気が向けば何を読んでもよいし、何を見てもよいと言われていた。その結果によると、実験が始まって最初の2~3セッションは、被験者の多くがそうしたものを見たり、読んだりして時間をつぶしていたが、2週目に入ると(6~10セッション)、そうしたものへの関心は急減し、3週目になると(11~15セッション)、「見るのも嫌だ」と言い出す者も出てきた、とのことである。

他方、エロチックな刺激素材に接することが性行動の在り方に及ぼす影響については、「そうした影響は既に確立された性行動のパターンを変化させるほど強力なものではない」と報告されている。

たとえば、中年夫婦を被験者とした実験では、4週間にわたって、毎週1日の割合でエロチックな映画を見る時間がつくられた。その影響は前後の4週間と比較することで測定されたが(日誌形式の自己報告)、そこからは有意な変化は見出されなかった (Mann, Sidman & Starr, 1970)。

* たとえば、次のようにも言われている; The capacity of erotic stimuli to excite the viewer or user diminishes after a few hours, that "the half-life of pornography is approximately two-to-three hours in one's total life time" (Money, J. 1970). (The Report of the Commission on Obscenity & Pornography, 1970, Bantam Book, p. 214 より引用)

エロチカに対する態度

諮問委員会の委託研究であった世論調査の結果によれば (Abelson, et al., 1970), 回答者の年齢, 性別, 宗教, 教育レベルによって, エロチカに対する態度には大きな差異が見出されるが, 一般的には, ①宗教的な関心は低い, 教育レベルの高い若い人たちの方が, エロチカに対してより許容的な態度を有していること, ②男性の方が女性よりも許容的であること, ③そうしたものに接する機会が多い者ほど, 許容的であること, が明らかにされている。

一方, エロチックな刺激素材に繰り返し接触することによって, どのような態度変化がもたらされるのかについては, 前述の Howardらの実験報告が参考となる。

そこでは男子大学生23名 (21~23才) が実験群として, 3週間にわたり, 毎週5日間エロチックな映画や雑誌, 写真を見ることになった。その結果, 実験終了時にはそのうちの21名がエロチカに対する態度をより許容的な方向に変化させていたこと, が明らかにされた。

またこうした態度変化は85組の中年夫婦を被験者とする実験においても見出されている (Mann, Sidman & Starr, 1970)。

ところで「何がエロチックであるか」については, 刺激素材が提示される社会的文脈のほかに, モデルの魅力, ポーズのとり方, 衣服, 裸体の露出度, 写真術といった要因が関係してくるけれども (Katzman, M. 1970), 他方では「ポルノチックと判断される素材は非常に刺激的であると同時に, 強い不快感を与えるものである」との指摘もある (Amorso, et al., 1970)。

エロチカと反社会的行動との関係

この問題は, ①エロチックな刺激素材との接触頻度と反社会的行動との関係, ②受刑者とポルノグラフィーとの関係, といった観点から取りあげられてきた。

アメリカの犯罪白書によれば, 1960~1969年の10年間に, 犯罪の逮捕者

数は2倍以上となったが、性犯罪で逮捕された者は逆に減少を示していた。この間にポルノグラフィーの入手可能性は非常に高まったことを考えるならば、ポルノグラフィーの悪影響を論ずることは難しい、と結論された(Kupperstein & Wilson, 1970)。

またデンマークの調査では、ポルノグラフィーの解禁が性犯罪の減少をもたらしたとも報告されている(但し、この点については異論がある)。

一方、非行者とそうでない者との比較調査からは、ポルノとの接触頻度、接触量、ポルノを手にした年令、ポルノに対する性的な興奮度に関して、両群の間にはほとんど差異が見られなかったと報告されている。

また成人の場合、性犯罪者及び性的逸脱者の方が青年期におけるポルノとの接触は少かったとも報告されている。

つまり、性犯罪者はどちらかと言えば、性の問題に関しては抑圧的な家庭の生れであり、未成熟で、性的には晩生であったとのことである。

大統領諮問委員会の答申内容

諮問委員会は最終的にその審議内容を10項目の答申にまとめているが、それらはいずれも全員一致の意見ではなく、多数委員の意見として採択されたものであった。

諮問委員会はまず、「ポルノグラフィーに関する今日的な問題の多くは、人びとがこの種の問題をまともに取りあげようとしなかったことにある…人びとのそうした態度や行動が性の問題を隠蔽したり、矮小化してしまうことになり、延いては社会的に望ましくない事態を招く結果となっている」と論じた。

さらに、「青少年が性の問題に関心をもったり、興味を示すのは当然のことであり、むしろ健全な発達を示すものである」と断定したうえで、そのためには、「彼等に性についての正しい知識や情報を与えることが肝要

である」と主張した。

その結果、答申のなかで最も強調されたことは大規模な性教育の実施であり、①合法的なチャンネルを通じて、性に関する正しい知識を与えるとともに健全な態度を涵養すること、②性教育の場を学校の中だけにとどめることなく、家庭や教会を含めた地域社会さらには政府機関やさまざまな団体や組織との緊密な協力のもとに実施すること、③性教育の目的としてはどの意見や立場が正しいかを教え込むのではなく、性に関する多様な考え方を認めあうように指導すること、④特定の立場を採るにしても、それは強制、抑圧、検閲といった手段に訴えるのではなく、あくまでも説得を通じて行うようにすること、などが強調された。

一方、ポルノグラフィの法的規制に関しては、「ポルノであろうが何であろうが、成人が読みたいものを読み、見たいものを見るという個人の自由は何人も干渉することができない……そうした自由を制限する法律は、国法であろうが、州法であろうが、直ちに廃止されなければならない」と主張した*。

その理由としては、①これまでの研究結果をみるかぎり、ポルノを見たり、読んだりすることが犯罪や非行、性的逸脱、情動障害といった社会問題及び個人レベルの不適應の主たる原因とはみなされないこと、②成人の間では、ポルノが自らの楽しみや情報源として利用されているとの事実があること、③ポルノの法的規制が実効をあげていないこと、④世論調査の結果からは、国民の多数がポルノの法的規制に賛成ではなかったこと、があげられた。

* The Effect Panel regards it as appropriate to assert that any recommendations proposing blanket restrictions on all forms of sex-oriented material cannot be based on a reasonable interpretation of the facts here presented even when the limitations of the data are considered. Available research on the impact of erotica clearly suggests that greater latitude can safely be given to adults in deciding for themselves what they will or will not read and view. (前掲書の p.171 より引用)

但し、現段階では法律による規制が必要とみなされるものとして、①両親の承諾がない状態での未成年者を対象とするポルノの販売及び配布、②公衆の目に触れるような場所にポルノを展示、陳列すること、③本人の承諾なしにポルノを郵送する通信販売行為、があげられた。

ここで興味深いことは、成人に関しては規制の撤廃を主張しながら、未成年者に対してはポルノの販売規制を答申した理由である。

すなわち、④未成年者の場合、成人に関するほど十分な研究データが蓄積されていない現状では、直ちに法的規制を撤廃することは時期尚早であると判断されたこと、⑤国民の多数が未成年者はポルノの類を手にするべきではないと考えていたこと、⑥成人になるまでの間、子供たちの保護、監督は両親に任されていることから、親が子供の監督をしやすい状況を作ること、がその理由としてあげられた*。

Lockhart Report に対する反発

この答申はポルノの規制を主張していた当時の議会及びニクソン大統領にとって、決して受け入れることのできない内容であった。彼等は答申の受け取りを拒否するとともに、諮問委員会を職務怠慢として非難する決議を採択するなどの反撃に出ることになった。

無論、こうした反発は政治の世界だけにとどまらず、学界レベルにおいてもさまざまな形で答申に対する批判の声があがることになった。

たとえば、ユタ大学の心理学者であった Victor, B. Cline は、委員会のなかでは一貫してポルノの法的規制を主張してきた Charles, H. Keating (Founder of Citizen for Decent Literature) の依頼をうけて答申内容を検討し、「この答申の内容は学問的にも非常に問題の多いものであり、と

* 但し、委員のなかにはこうした規制すらも不必要である、と主張する者もあり、それらは少数意見として並記されることになった。

きには自分たちに不都合なデータを隠している」と非難した*。

すなわち Cline によれば、報告書のなかでは何故か取りあげられなかったが、476人の少年院収容者に関する調査結果では (Propper, M. 1970)、ポルノとの接触頻度と低年齢者における性的非行との間には高い相関があると報告されていること、②委員会の報告書のなかで引用された研究において (Davis & Braucht, 1970)、「低年齢者段階でのポルノとの接触は性的非行と結びつきやすい」との結論部分の行が無視されていること、③報告書のなかで、「専門家たちはポルノが有害であるとは考えていない」との行があるが、その根拠とされたデータはサンプルの1/3しか回答してこなかった郵送法の結果に基づくものであり、割合からすれば少ないけれども、「ポルノ有害説」をとる専門家も多かったこと、④報告書の分析では、「ポルノの主たる購入者は30～40代の教育のある中流階級の男性」とされているが、それは調査者がそうした書店に出入りしている人たちの年齢、社会階層を推測したデータに基づくものであり、真偽の保証はないこと、⑤報告書の中では、「性犯罪者はそうでない者と比べて、性的に抑圧された家庭の者が多く、一般的に晩生である」と述べられているが、それは多様なタイプの性犯罪者を一括してしまうという方法論上の誤りによるものであること、⑥報告書では、「性行動のパターンは安定しており、ポルノを見たり、読んだりするだけで変化するようなことはない」と結論づけられているが、それに対しては次のような批判が成りたつことを指摘した。

すなわち、④この問題を扱っている16の関連研究をレビューした所、そうした結果はポルノと接触する前と後の24時間についての比較であり、結果を云々するにはあまりにも短時間であること、⑤ポルノとの接触時間についても、全体で50秒とか (Amorso, 1970)、6分半 (Byrne & Lamberth, 1970) といったような短時間のものが多く、その程度では影響力を云々す

* Cline は、「委員会の委託によって行われた研究は、委員会とは独立の立場の者によって評価されなければならない」と批判した。

ることはできないこと、㊦ポルノを視聴した被験者の多くが大学生であり(16の研究のうち13)、彼等がポルノに対して許容的であり、接触頻度も高いことを考えれば、直ちにその結果を一般化することはできないこと、㊧自らの行動の一部始終が実験者によって観察されているということになれば、被験者も慎重にならざるをえず、それが「ポルノの影響力なし」との結論をもたらしたとも考えられること、㊨被験者が志願者であったことが逆にバイアスをもたらすことになったとも考えられること、㊩報告書の中では、「ポルノとの過剰接触は飽きをもたらす」と述べられているが、そうした心的飽和は実験室という特殊な状況に限られるものであり、ポルノの購入者はむしろ定期購読者であると言われていること、などである。

また Eysenck & Nias (1978) は「委員会のメンバーは事例を評価することには関心があっても、証拠を公平に重みづけることについては必ずしも慎重ではなかった……多数意見の執筆者たちはそれらの調査結果を検討するにあたって必要かつ十分な注意を払わなかった……」とも批判しており、この種の問題を論ずるにあたっては単に結果を羅列するのではなく、理論的な考察を行うことが必要である、と指摘する。

無論、委員会もこうした批判を或る程度予想しており、①2年間という任期とそれよりも短い研究日数を考えれば、ポルノの影響についての長期的な研究 (long-term effect) は最初から断念せざるをえなかったこと、②さらに各研究結果について十分に検討する時間がなかったことから、ときには見落としや説明の混乱、矛盾もありうること、③若年者、特に子供についてのデータを集めることができなかったこと、を明らかにしている。

こうした批判にもかかわらず、諮問委員会はこれまで社会科学的な立場からは取りあげられることの少なかった human sexuality の問題を正面から取りあげ、研究結果に基づいて「ポルノの無害性」を証明したことを自らの功績の一つとしているが、それについては、こうした問題に対して社会科学的なアプローチ（特に行動科学的なアプローチ）を適用すること

が一体どのような意味をもつのであろうか、といった批判も見出される。

たとえば、Wilson, J. Q. (1971) は「諮問委員会の誤りはあまりにも社会科学的な研究に固執してしまったことである。本来この種のモラルに関する問題は社会科学的なアプローチでは扱えないものであり、法的な規制云々という議論もまた、哲学乃至政治的な立場から論じられなければならない性質のものである」と批判した*。

また、イギリスにおいてポルノグラフィの規制の問題を検討した Longford Report (1972) の中でもこの諮問委員会の報告書が取りあげられていたが、そこでの委員会メンバーの反応は次のようなものであった；「我々はこの種の研究がポルノグラフィの影響を論ずるうえで有益であるとは思えない。何故ならば、人びとの行動はさまざまな要因の働き合いの結果として生じてくるものであり、そうした要因のなかからポルノグラフィの影響だけを切離して研究することが可能とは思えないからである」(Yaffé, M. 1972 のレビューに対する David Holbrook と Mary Miles のコメント, p. 498)。

Attorney General's Commission

1985年5月20日、司法長官 Edwin Meese III はポルノグラフィに関する諮問委員会の設置を発表した。これが Attorney General's Commission on Pornography とよばれる諮問委員会であり、「アメリカ国内におけるポルノグラフィの実態、流通・取引の状況、それが社会に及ぼす影響を検討したうえで、憲法が許す範囲内で有効な法的規制案を答申するよ

* It is unlikely that social science can either show harmful effects or prove that there are no harmful effects. It is unlikely, in short, that considerations of utility or disutility can be governing. These are moral issues and ultimately all judgments about the acceptability of restrictions on various media will have to rest on political and philosophical considerations (Wilson, 1971, p. 61).

うに」求めており、委員は11名、予算は50万ドル、任期は1年であった。

この諮問委員会の設置については当初から「検閲の強化を目的としたものである」との批判があったけれども、答申は1986年7月3日に提出されることになった。

その答申の結論部分を構成するのが、「性的な暴力場面を含んだポルノを見たり、読んだりすることと女性に対する攻撃行動の増加との間には明らかに因果関係が見出される」という指摘であった*。

ところでこの結論は、1970年の大統領諮問委員会の答申とは異なり、委員会独自の研究結果に基づくものではなく、既存の研究の文献レビューから導き出されたものであった。両者の間には約15年の歳月が経過しており、その間に次のような変化があったと言われる。①前回の答申以降、この分野の研究が質量ともに増加したこと、②性的な喚起 (sexual arousal) の直接測定が可能になるなど測定法の改善がみられたこと、③刺激素材の内容の相違であり、1970年以前は実験に用いる刺激素材の入手に困難をきたしたが、1970年代になるとそうした心配はなくなり、逆にビデオなどの新たな媒体が出回るようになったこと、である。

この1986年の答申において主要な役割を演じたのが、Neal MalamuthとEdward Donnersteinであった。彼らはまずポルノグラフィを、①性的な暴力場面を扱ったポルノ (violent sexually explicit material) と②暴力場面を含まないポルノ (nonviolent sexually explicit material) とに分類したうえで、次のような研究デザインに基づいてポルノ映画の影響を分析した。①被験者には性的な暴力場面を含む映画を視聴させ、その間の生理的

* It became the first government study to claim that research is “virtually unanimous” that there is a causal relationship between exposure to sexually violent materials and an increase in aggressive behavior toward women (Introduction by Michael McManus. In Final Report of Attorney General’s Commission on Pornography, 1986. Rutledge Hill Press: Nashville, Tennessee).

な反応を測定する。この生理的反応は後で被験者の自己報告と照合することによって内容がチェックされる。最後に映画に対する印象評定という形で従属変数の測定が行われる（たとえば、レイプ神話の受容度、女性に対する暴力の肯定など）。②被験者には映画の内容評価の名目で予め用意された映画の1本を視聴させる。映画は攻撃的行動、性的な暴力場面、社会的な意味合いに乏しいもの、を取りあげている。その後で被験者は別の種類の実験としてレイプ事件を扱った模擬裁判への参加を求められる。従属変数はその事件の被害者に対する同情の度合、被害者自身の責任の度合についての評定である。③被験者には性的な暴力場面を取りあげた映画を視聴させた後で、学習実験への参加を求める。そこでは被験者は教師役を割りふられており、生徒役のサクラが間違いをおかすたびに、電気ショックを罰として与えるようにと告げられる。従属変数は被験者が与えた電気ショックの強度、持続時間であり、それらは攻撃行動の指標とみなされる。

こうした実験を通じて次のことが明らかにされた。①性的な暴力場面を含むポルノ映画との接触はレイプ神話（rape myth）の受容及び女性に対する暴力の肯定と結びつくこと、②特に女性の被害者が暴力の行使を喜んで受け入れているように描写されているときには、上記の反応が顕著に見出されること、③そうした内容のポルノ映画は或るタイプの性犯罪者や一部の男性を性的に興奮させること、④性的な興奮は実験室場面では女性（サクラ）に対する攻撃行動となって現われること（電気ショックの強度の増加など）、である。

他方、性的な暴力場面を含まないポルノ映画の影響については、はっきりした結果がえられなかった。この点については、「悪影響がないということではなく、本来見出される筈の影響が、この種のポルノの概念定義の曖昧さのために生じた研究結果の混乱によって、明確な結論を導き出すことができなかったためである」と解釈された。

しかしながら、Howard, L. (1982) はこの解釈に異議を唱えており、

「むしろこのことは1970年の大統領諮問委員会の結論を大筋で認めたものと解釈すべきである」と主張する。いずれにしても、この種の研究においては刺激素材の内容のコントロールが重要と思われる。

要 約

本稿ではポルノグラフィの法的規制をめぐる問題に対して、社会科学（特に、行動科学、心理学）の知見が有効であるかどうか論じられた。

従来この種の論争が不明確な前提条件や、曖昧な思い込みのもとに行われており、とかく水掛け論に終始しがちであったことを反省して、大統領諮問委員会が経験的なデータを重視する姿勢を打ち出したのは当然のことであった。こうして human sexuality に関する問題は初めて社会科学及び行動科学の土俵上で論じられることになった訳であるが、多くの人びとがこうした事態を歓迎したかどうかは疑問である。

human sexualityの問題を一種の聖域とみなし、科学的な研究の手の及ばない所に押し止めておこうとする心情は根強いものであったからである。

それはまた、科学的方法論（特に、実験的方法）に対する批判とも相俟って、大統領諮問委員会の偏向を非難する世論を醸成する所ともなった*。

また他方では、「ポルノグラフィが主として男性をマーケットの対象にしている現状を考えるならば、男性の研究者が同性の視点からその善悪を論じるということ自体、果して問題の正しい解決をもたらすのであろうか」との女性研究者からの手厳しい批判もあった（Johnson & Goodchilds, 1973）。

ところで、大統領諮問委員会の「ポルノ無害説」を巡る論議のなかで明

* 実験室実験に対する批判としては、(i)実験事態の人為性 (artificiality) の問題、(ii)大学生を被験者とすることから生じるサンプルの代表性の問題、(iii)実験目的との関連で言及される実験者倫理の問題、(iv)従属変数の信頼性、妥当性の問題、(v)ポルノグラフィの概念操作の問題、などがあげられる。

確にされた対立点は、「有意な関係が見出されなかったから、無害」と結論してしまってよいのか、それとも逆に、「無害であることが立証できなければ、有害」と判断すべきではないか、一体この種の社会的争点の立証責任はどちらにあるのか、という論争であった。無論、この研究の方向づけを巡る論争は単なる二者択一にとどまらず、答申内容を大きく左右する問題でもあった。

この点について、Eysenck & Nias (1978) は大統領諮問委員会の場合、研究評価の技法が確立されていなかったために、質の異なる研究結果を並記せざるをえず、しかもそれらが相互に矛盾する結果を報告していたために、結局の所、「ポルノを有害とみなす決定的な証拠はない」と結論せざるをえなかったと批判する。彼等はまた、研究結果を仔細に検討していれば有害説に傾いた筈である、とも批判する。

大統領諮問委員会の答申が議会と大統領によって不名誉な形で葬り去られてしまったことに対して、『影響力検討』小委員会の委員長を務めた Otto, N. Larsen は後に次のように述懐している；委員会に付託された任務を考えれば、委員会はまずどのような社会政策が実行可能かを検討したうえで、それを裏付ける作業に取りかかるべきであった。我々の失敗はそうした戦略をもたないままに作業を開始してしまったことである。その結果として、社会科学の知見を社会政策と有機的に結びつける方途を見失ってしまったのである。我々にとっての社会政策の位置づけは、研究が終了した段階で始めて問題にされるといった程度のものではしかなかったのである (Larsen, 1975, p. 23)*。

こうして社会科学の知見を社会政策に反映させるまたとない機会は、逆

* The irony is that social science may be weakest in detecting the broadest and most fundamental changes in social values, precisely because they are broad and fundamental (Wilson, 1971, p. 58).

に社会科学のアプローチに対する不信を浮き彫りにする結果となってしまったのである。

しかしながら、1986年の Attorney General's Commission では社会科学（心理学）の知見が「ポルノ有害説」を裏付けるものとして全面的に採用されていることを考えるならば、社会科学の知見云々ということよりも、解釈の仕方が既に政治問題化されてしまっているのである。そうした状況では、どのような知見がえられようとも、社会科学者の発言がまともにとりあげられることはないのである。

引 用 文 献

- Eysenck, H. J. & Nias, D. K. B. 1978 Sex, violence and the media. (岩脇三良訳 1982 性・暴力・メディア—マスコミの影響力についての真実—。新曜社)
- Howard, L. 1982 Pornography and Forensic Psychology. In M. Yaffé & E. C. Nelson (Eds.) The Influence of Pornography on Behavior. Academic Press. p. 151-169.
- Johnson, P. & Goodchilds, J. D. 1973 Comment: pornography, sexuality, and social psychology. Journal of Social Issues, 29, 231-238.
- Larsen, O. N. 1975 The Commission on Obscenity and Pornography: Form, Function, and Failure. In M. Komarovsky (ed.) Sociology and Public Policy: The Case of Presidential Commissions. Elsevier, p. 9-41.
- Malamuth, N. M. & Donnerstein, E. (Eds.) 1984 Pornography and Sexual Aggression. Academic Press.
- Wilson, J. Q. 1971 Violence, pornography, and social science. The Public Interest, 22, 45-61.
- Yaffé, M. 1972 Research survey. In Lord Longford (ed.) Pornography: The Longford Report. Coronet Books, p. 460-507.

本文中で引用されたその他の文献は、The Report of the Commission on Obscenity & Pornography (1970, Bantam Book) で取りあげられたものであり、原典は委員会の研究報告書に所収されている（附表1を参照のこと）。

附表 1. Annotated References

(The research problem and method of 39 Commission-funded studies cited in the Effects Panel Report are described here.)

- ① Abelson, H., Cohen, R., Heaton, E., & Slider, C. Public attitudes toward and experience with erotic materials.

Problem: To identify the amount, frequency, and circumstances of the public's exposure to erotic materials; to describe community standards and norms pertaining to distribution, consumption, and control of erotics; to collect other relevant data concerning the correlates of exposure to erotic materials, and to identify the public's perceptions of the effects of exposure to erotic materials.

Method: A probability sample interview survey of 2,486 American adults over 20 and an additional sample of 769 young persons, 15 to 20. Face-to-face interviews were conducted in the 48 contiguous states during February, March, and April of 1978.

- ② Amoroso, D.M., Brown, M., Pruesse, M., Ware, E.E., & Pilkey, D.W. An investigation of behavioral, psychological, and physiological reactions to pornographic stimuli.

Problem: To obtain subjective ratings of erotic slides and to assess the effect upon these ratings of social context of viewing, presence of physiological instrumentation, and order of presentation of the erotic stimuli.

Method: Ss were 60 male undergraduate students, 18 to 25, who viewed 27 color erotic slides. Each slide was rated on 11-point scales for "pornographic—not pornographic", "pleasant—unpleasant", and "sexually stimulating—not sexually stimulating". Half the Ss viewed slides alone, half in groups of five. Half of each of these was "wired" in simulation of physiological measurement. Slides were presented in three different orders over the groups. Attitude and behavioral data were obtained before exposure and one week later.

- ③ Ben-Veniste, R. Pornography and sex crime—the Danish experience.

Problem: To examine the statistical relationship between avail-

ability of erotic materials and the incidence of sex crimes in Copenhagen, Denmark for the 1958-1969 period.

Method: Refined sex crime data were obtained by reviewing over 9,000 police reports in Copenhagen. Estimates of the dissemination of erotic materials were developed with statistics furnished by producers of these materials through face-to-face interviews or self-administered questionnaires.

- ④ Berger, A. S., Gagnon, J. H., & Simon, W. Pornography: high school and college years.

Problem: Through secondary data analysis, to analyze relationships between experience with erotic material and selected social and sexual behaviors among American college students.

Method: Data utilized were obtained in a national probability sample of full-time male and female undergraduates at four-year American colleges and universities during 1967 (sample stratified by year in school). Data based on 1,177 interviews with white students between 17 and 24; 593 males and 584 females.

- ⑤ Berger, A. S., Gagnon, J. H., & Simon, W. Urban working-class adolescents and sexually explicit media.

Problem: To describe the type, frequency, and amount of experience with erotic material and to examine the relationship between such experience and certain attitudes and sexual behaviors among working class adolescents.

Method: A self-administered questionnaire was completed in group sessions by a nonprobability sample of 473 working-class youth in Chicago. Youths ranged from 12 to 18, and the sample was obtained on an ad hoc basis through a YMCA agency and street corner workers.

- ⑥ Byrne, D., & Lamberth, J. The effect of erotic stimuli on sex arousal, evaluative responses, and subsequent behavior.

Problem: To explore the effects of identical erotic depictions presented in three different conditions upon sexual arousal, various evaluative and judgmental responses, and sexual behavior.

Method: Ss were 42 married couples who were assigned randomly to three experimental groups. One group viewed 19 erotic slides, a

second group read 19 erotic stories, and a third group was asked to "imagine" each of erotic depictions. Ss rated each depiction in terms of "sexually exciting", "pornographic", and "restrictiveness". Inventories concerning emotional states and opinions about erotic material were administered before and after exposure. A follow-up questionnaire was completed one week after exposure.

- ⑦ Cairns, R.B. Psychological assumptions in sex censorship: an evaluative review of recent research.

An evaluative review of the psychological literature pertaining to the effects of exposure to erotic stimuli. Studies cited in Psychological Abstracts (1961-1968) and published in other relevant journals are discussed.

- ⑧ Cook, R. F., & Fosen, R. H. Pornography and the sex offender: patterns of exposure and immediate arousal effects of pornographic stimuli.

Problem: To compare patterns of experience with erotic materials and actual responses to such materials after controlled exposure of incarcerated sex offenders and incarcerated non-sex offenders.

Method: Matched samples of 63 sex offenders and 66 non-sex offenders viewed 26 color erotic photographic slides depicting heterosexual petting, coitus, and oral activities. Each slide was rated on a six-point "arousal" scale. Slides were presented either randomly or in a "story-line" sequence. All Ss were interviewed about the type and frequency of experience with erotic material during childhood. A follow-up questionnaire was completed during the 24 hours after exposure.

- ⑨ Davis, K. E., & Braucht, G. N. Reactions to viewing films of erotically realistic heterosexual behavior.

Problem: To distinguish types of reactions to erotic film, utilizing post-experimental inventories and a pre-experimental survey of sexual history, attitudes and "moral character".

Method: Ss were 121 males, representing a range of sociosexual background characteristics. Ss viewed three erotic films depicting heterosexual petting, coitus, and oral sexuality. After film-viewing, Ss completed a questionnaire pertaining to immediate emotional and

sexual responses. Another questionnaire was completed 24 hours later.

- ⑩ Davis, K.E., & Braucht, G.N. Exposure to pornography, character, and sexual deviance: a retrospective survey.

Problem: To evaluate hypotheses about the impact of erotic stimuli upon moral character and deviant behavior by examining behavioral and attitudinal correlates of experience with such materials.

Method: Respondents were 365 males from eleven different natural groups including jail inmates, Mexican-American college students, Black college students, white fraternity members, conservative Protestant students, and Catholic seminarians. Scales were developed to measure amount and age of first exposure to erotic material and various dimensions of family and peer environments associated with deviant behavior.

- ⑪ Elias, J.E. Exposure to erotic materials in adolescence.

Problem: To describe the amount, type, and frequency of experience with erotic materials among high school students, and to describe the social and psychological circumstances of such experience.

Method: A probability sample of 405 high school students was drawn from a school district in a large midwestern city. Questions dealt with experience with erotic materials as well as with preferred and actual sources of sex information. A subsample was drawn for face-to-face interviews.

- ⑫ Finkelstein, M.M. The traffic in sex-oriented materials, part I: adult bookstores in Boston, Mass.

Problem: To examine adult bookstore traffic in sex-oriented materials in Boston and to develop preliminary information concerning possible involvement of organized crime in distribution of such materials.

Method: Interviews with law enforcement officers, public officials, participants in bookstore traffic; examination of public business records, periodic inspections of adult bookstores, etc.

- ⑬ Goldstein, M.J., Kant, H.S., Judd, L.L., Rice, C.J. & Green, R. Exposure to pornography and sexual behavior in deviant and normal

groups.

Problem: To determine comparative frequency of adolescent and recent (prior year) exposure to erotic materials and the attitudinal and behavioral correlates among selected adult subpopulations.

Method: Data were gathered from a clinical research instrument administered to samples of institutionalized sex offenders (rapists and two groups of pedophiles), non-institutionalized sex deviates (homosexuals and transsexuals), pornography users (customers of adult book stores, patrons of "skin flick" movie theaters and persons whose names were on mailing lists and identified as having purchased 8 mm erotic movies), Black (a Black ghetto group and a Black middle-class group), and normal white community controls.

- ⑭ Howard, J.L., Reifler, C.B., & Liptzin, M.B. Effects of exposure to pornography.

Problem: To assess the effects of repeated exposure to erotic materials upon sexual arousal, interest in erotica, attitudes toward sexuality and erotic materials, and certain emotional responses.

Method: Ss (23 experimental and 9 control) were male college students, 21-23. Ss viewed two erotic films during two exposure sessions occurring five weeks apart. Prior to each exposure session Ss participated in a psychiatric interview and were administered various personality and sex history inventories. Experimental Ss, between the two films, participated in 15 90-minute sessions during which they had the opportunity to view and read additional erotic (or nonerotic) material. Various physiological measurements were obtained during the 15 daily sessions, and additional data were obtained from self-administered questionnaires.

- ⑮ Johnson, W.T., Kupperstein, L., & Peters, J. Sex offenders' experience with erotica.

Problem: To compare male sex offenders with an age-matched groups of non-offender male adults from the general population with respect to experience with and attitudes toward erotic materials.

Method: Respondents were 47 probationary male, sex offenders who were interviewed with a questionnaire identical to that used in a

national survey (see Abelson et al., 1970). The sex offender sample included rapists, pedophiles, homosexuals and exhibitionists.

- ⑩ Katzman, M. Photograph characteristics influencing the judgment of obscenity.

Problem: To determine the specific features of erotic photographs which are correlated with "obscenity" judgments.

Method: 90 photographs were rated on five-point scales for "obscene" and "sexually stimulating". From these ratings, 46 photograph characteristics were identified and a value for each characteristic was allocated to the photographs. These values were correlated with each photograph's overall "obscenity" score.

- ⑪ Katzman, M. The relationship of socioeconomic background to judgments of sexual stimulation and their correlation with judgments of obscenity.

Problem: To analyze data collected earlier on judgments of sexual stimulation; to compare sexual stimulation ratings of different educational and occupational groups, and to investigate correlations of judgments of sexual stimulation with obscenity judgments and make comparisons between different educational and occupational groups.

Method: Comparison of different educational and occupational groups on mean "sexual stimulation" scores by analysis of variance technique and comparison of educational groups on rankings of mean photo "obscenity" scores.

- ⑫ Kupperstein, L. The role of pornography in the etiology of juvenile delinquency; a review of the literature.

Problem: To answer the question: What do the major empirically-based studies of juvenile delinquency have to say about the relationship between exposure to pornography and juvenile delinquency?

Method: Review of selected professional theoretical and research studies on delinquency causation.

- ⑬ Kupperstein, L., & Wilson, W.C. Erotica and antisocial behavior: an analysis of selected social indicator statistics.

Problem: To examine the statistical relationship between availability of erotic materials and the incidence of sex crimes and illegitimacy

in the United States for the 1960-1969 period.

Method: Analysis of the sex crime data reported by the Federal Bureau of Investigation in its Uniform Crime Reports for the years 1960-1969, and of the illegitimacy data compiled by the United States Department of Health, Education and Welfare. Estimates of the dissemination of erotic materials were developed by the Commission.

- ②① Kutschinsky, B. The effect of pornography—an experiment on perception, attitudes, and behavior.

Problem: To assess the effects of exposure to erotic film, magazines and narratives upon sexual behavior and attitudes toward sex crimes.

Method: Ss were 70 sexually experienced Danish university students (42 males and 28 females), assigned randomly to three experimental groups differing in pretest-posttest measurement procedures. All Ss participated in a 90 minute “group” session in which two 15 minute films were viewed, 5 color picture magazines were distributed and examined, and an erotic narrative was read via loudspeaker.

- ②② Kutschinsky, B. Pornography in Denmark: studies of producers, sellers, and users.

Problem: To survey the nature and volume of erotic materials available in Copenhagen, Denmark and to ascertain the social characteristics of the buyers and users of such material.

Method: Face-to-face interviews were conducted with a large number of producers, wholesalers, and retailers of erotic material in the Copenhagen area. In addition, 30 “porn shops” were selected for observation which included the collection of data pertaining to amount and kind of scales as well as social characteristics of buyers.

- ②③ Kutschinsky, B. Sex crimes and pornography in Copenhagen: a survey of attitudes.

Problem: To describe public attitudes about sex crimes and about reporting sex crimes in Copenhagen, Denmark for the purpose of ascertaining changes in these attitudes.

Method: A sample of 398 Copenhagen by two methods (random sample stratified by marital status and a nonprobability “quota” sample). Face-to-face interviews were conducted by same-sex interviewers.

- ②③ LoSciuto, L. Methodological report on a study of public attitudes toward and experience with erotic materials.

A technical discussion of the methodological procedures and problems involved in the Commission-funded national survey (Abelson, et al., 1970). Topics discussed include sampling procedures and sampling errors, field procedures, completion rates and an analysis of non-response, coding and editing procedures, and scale and index construction.

- ②④ Mann, J. The experimental induction of sexual arousal.

A review of the psychological and social psychological literature pertaining to the experimental induction of human sexual arousal. Clinical implications of results and possible directions of future research are discussed.

- ②⑤ Mann, J., Sidman, J., & Starr, S. Effects of erotic films on sexual behaviors of married couples.

Problem: To assess the effects of exposure to specific types of erotic films upon sexual and general marital behavior and upon sexual attitudes of married couples throughout a twelve week period.

Method: Ss were 85 couples, 40-50 years of age, married more than ten years. Ss were assigned randomly to four film viewing groups or a control group. All Ss recorded daily sexual activities with a mail-in log book for 84 consecutive days. After four weeks of recording daily activities (baseline phase), Ss were exposed to either erotic or nonerotic films, once a week for four weeks. Control group did not view films. After four weeks of exposure phase, Ss continued to record daily activities for an additional four weeks.

- ②⑥ Massey, M. A marketing analysis of sex-oriented materials in Denver, Colorado, August 1969.

Problem: To collect and interpret information related to the marketing activities, environment and community climate directly related to sex-oriented materials in Denver, Colorado.

Method: Marketing analysis with emphasis on observation and interview techniques.

- ②⑦ Mosher, D.L., & Katz, H. Pornographic films, male verbal aggression

against women, and guilt.

Problem: To explore whether sexual arousal from viewing a pornographic film increases the likelihood of verbal aggression against women and to assess the influence of guilt on verbal aggression against women.

Method: Ss were 120 male college students (volunteers) watched either pornographic or neutral films. Prior to viewing, base level of aggression was established. After viewing, half of the Ss were told that seeing a second film was contingent upon obtaining a high but unspecified level of aggression against a female confederate; the remaining Ss were simply asked to aggress a second time against the female assistant.

- ⑳ Mosher, D.L. Psychological reactions to pornographic films.

Problem: To investigate affective responses of college men and women to viewing erotic film as a function of the situation, past sexual histories, psychological maladjustment and sex guilt.

Method: Ss were 194 males and 183 females, freshman and sophomore college students. Various inventories were used to assess sexual experience prior to exposure, "sex guilt", maladjustment and various affective states (sexual arousal, anxiety, shame, guilt, and various sex attitudes). Ss were exposed to erotic films in same-sex groups of 30. Behavioral changes were assessed 24 hours after exposure and again two weeks later.

- ㉑ Mosher, D.L. Sex callousness toward women.

Problem: To develop a self-reported measure of sex calloused attitudes toward women and to relate it to reports of sex aggression and exploitation.

Method: 256 single, male college students completed newly constructed measure of sex calloused attitudes toward women as well as measures of guilt and sex experience. All measures were correlated with reported sex aggression and other exploitive tactics.

- ㉒ Nawry, H. The San Francisco marketplace.

Problem: To determine the nature and extent of the distribution of sex-oriented materials in San Francisco, and to describe and analyze

the sociological and psychological attitudes, experiences and behavior of the consumer population of the San Francisco marketplace for erotic literature and films.

Method: Field observations (100% visual coverage of 6 out of 7 districts where sale of erotic materials is possible); interviews with bookstore owners and distributors, arcade managers and movie theater owners; collection of over 4,700 detailed demographic observations of consumer population in bookstores, arcades, and movie theaters; and in-depth questionnaires to random sample of bookstore and movie patrons.

- ③① Propper, M. M. Exposure to sexually oriented materials among young male prison offenders.

Problem: To determine experience with and attitudes toward erotic materials among a sample of youthful offenders (16 to 21 years) serving sentences in the reformatory of a large north-eastern city.

Method: Ss were 476 incarcerated males. Data collected from a respondent questionnaire inquiring into experience with erotic materials, social and sexual attitudes and demographic background; a peer rating schedule inquiring into offender's character as judged by his peers; and oral interviews using the survey questionnaire developed specifically for the Commission by Abelson et al., (1970).

- ③② Schiller, P. The effects of mass media on the sexual behavior of adolescent females.

Problem: To identify the various popular media which function as catalysts for evoking or reinforcing the "love theme"—and associated erotic feelings—among adolescent females, and to examine the ways and degree to which these stimuli affect their sexual behavior.

Method: The data were gathered from interviews and questionnaires administered to a group of inwed pregnant junior and senior high school age girls and a group of sophomores in a girls' junior college.

- ③③ Tannenbaum, P. H. Emotional arousal as a mediator of communication effects.

Problem: To experimentally test a "theory" which postulates that

increased physiological arousal, by whatever means it may be induced, leads to a heightened level of responsiveness—regardless of whatever response the individual is called upon to make.

Method: Several experiments, using college students as Ss were conducted in which different films (aggressive, erotic, humorous, neutral) were used to induce physiological arousal (measured by heart rate, systolic and diastolic blood pressure, skin temperature) and after which, Ss were asked by the E to make various response (“aggressive”, “helping”, “humorous” etc.).

- ③④ Thornberry, T. P., & Silverman, R. A. The relationship between exposure to pornography and juvenile delinquency as indicated by juvenile court records.

Problem: To determine whether juvenile court records reflect, to any significant degree, the role of pornography in the commission of delinquent acts, particularly sex offenses, or in the personal or social maladjustment of the juvenile offender.

Method: Detailed examination of the juvenile court records of a sample (representative) of 436 delinquents brought to the attention of the Neuro-Psychiatric Division of a large, urban juvenile court in Eastern United States during the calendar year 1968.

- ③⑤ Walker, C. E. Erotic stimuli and the aggressive sexual offender.

Problem: To provide information regarding the relationship between experience with erotic materials and sexual offenses.

Method: The basic procedure was to administer a structured interview and three psychological tests to seven groups of 30 respondents, including two groups of incarcerated aggressive sexual offenders, two matched groups of incarcerated non-sexual offenders, and three unmatched groups of college students and men's service club members.

- ③⑥ Winick, C. A study of consumers of explicitly sexual materials: some functions of adult movies.

Problem: To study the characteristics of consumers of explicitly sexual materials, particularly adult movie theater patrons.

Method: A total of 100 interviews with patrons of heterosexual adult movies was conducted in New York (45), Chicago (15), Atlanta

(20), Kansas City (10) and Los Angeles (10). Respondents were men who had just viewed an adult movie.

- ③⑦ Zetterberg, H.L. The consumers of pornography where it is easily available: the Swedish experience.

Problem: To describe attitudes toward erotic material and the correlates of these attitudes in Sweden.

Method: Through secondary analysis (of data obtained from a probability sample of 2,001 respondents, 18 to 60), a typology of attitudes about "pornography" was developed. Various other attitudinal constellations and patterns of social and sexual behavior were examined.

- ③⑧ Zuckerman, P. Physiological measures of sexual arousal in the human.

A technical discussion of contemporary developments in the physiological measurement of human sexual arousal. Areas reviewed include skin potential and skin resistance, cardiovascular changes, respiration, penile erection measures, uterine contractions, temperature, pupillary response, and evoked cortical response.

- ③⑨ Zurcher, L. A., & Kirkpatrick, R. G. The natural history of an ad hoc anti-pornography organization in Midville, U. S. A.

Problem: To document the natural history of an ad hoc anti-pornography organization.

Method: Description and Review of anti-pornography activities in Midville from 1950-1969, the origins, growth and accomplishments of the anti-pornography organization, and the role of key participants and community formal organizations and agencies as they relate to the evolution of the ad hoc organization.

- (注) The Report of the Commission on Obscenity & Pornography. (1970, Bantam Book) p.301-308 より転載.